

中学校社会科公民的分野における社会参画意識を高める指導の工夫 — 価値判断や意思決定する場面を位置付けた学習活動を通して —

日出町立日出中学校 阿南 幸一

要旨

本研究は、中学校社会科公民的分野において、価値判断や意思決定する場面を位置付けた学習活動を通して、社会参画意識を高めるための指導の工夫を探ったものである。中学校社会科の学習指導要領改訂の趣旨の1つに、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養や、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成が求められている。これらの力を養う場面を位置付けた意思決定過程の手立てを明確にし、地域社会へ提言する授業を行ったところ、社会参画意識の高まりが認められた。

〈キーワード〉 価値判断 意思決定 持続可能な社会づくり 社会参画意識の涵養 意思決定過程

I 研究の背景と目的

1 背景

(1) 現状

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新、少子高齢化等が進む中で、「成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくこと」(注1)が求められている。

中学校学習指導要領解説社会編においても、「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」(注2)が必要であると明記されている。

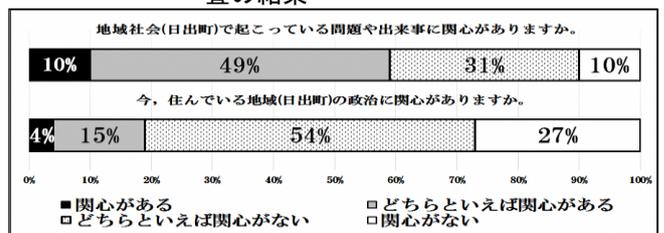
そのような中で、平成30年に内閣府が実施した「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」では、「社会をよりよくするため、私は社会における問題の解決に関与したい」、「将来の国や地域の担い手として積極的に政策決定に参加したい」、「私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」という社会参画に関する調査項目で、日本の若者は他国と比べて意識が低い傾向にあることが示された。

6月に所属校の3年生を対象として、公民的分野における社会参画に関する質問紙調査を実施した。質問紙調査の結果は、以下の通りである。まず、地域社会への関心度については、地域社会で起こっている問題や出来事に関心はあるものの、その問題を解決する政治への関心は低い傾向にあることが分かった(資料1-①)。次に、地域社会への参画意識については、地域社会のために役

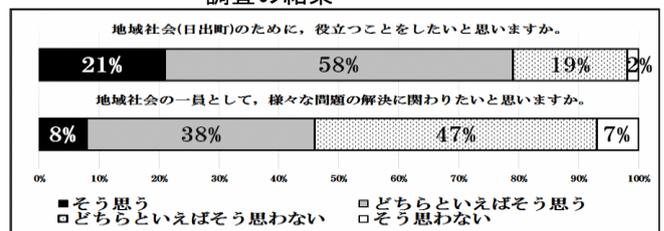
立ちたいという意識はあるものの、その問題解決のために関わりたいと思う生徒の割合は、50%未満であった(資料1-②)。これらの実態は、「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」での日本の若者の意識と同じ傾向である。

以上のことから、地域社会で見られる課題については、自分事としてとらえておらず、その解決に向けて主体的に考えるまでに至っていないことが質問紙調査から明らかになった。

<資料1-①> 地域社会への関心度に関する質問紙調査の結果



<資料1-②> 地域社会への参画意識に関する質問紙調査の結果



(2) 課題

前述の実態を踏まえ、地域社会で見られる課題を自分事としてとらえ、その解決に向けて、主体的に考えようとする態度を育てていく必要があると考える。生徒の社会参画意識を高めていくためには、地域社会との関わ

りを意識した課題を追究したり解決したりする活動を取り入れていく必要がある。

(3) 先行研究

そこで、注目したのが小原友行の意思決定学習論である。小原は、意思決定過程を「①問題把握②達成すべき目的・目標の明確化③すべての実行可能な解決策の作成④解決策の論理的結果の予測⑤解決策の選択と根拠づけ⑥決定に基づく行動」の大きく6つに分けた段階的な意思決定過程により、得られた事実認識をもとにして価値判断することで、意思決定する力を伸ばすことができると提案している。問題場面での自己の行為を、事実認識と価値判断に基づいて選択・決定する小原の意思決定過程は、課題意識を高め、解決策を追究する姿勢を重視した学習活動であると言える。

一方で、解決策を追究する場面において、生徒の思考をどのように深めていくかについては、意思決定過程を取り入れるだけでは十分とは言えない。そのため、中学校学習指導要領解説社会編に明記されている「効率」と「公正」の視点から解決策を追究する活動を通して、生徒の思考を深めさせていく必要があると考えた。

そこで、本研究は、中学校社会科公民的分野の「地方自治」の単元に焦点を当て、社会参画意識を高める指導の工夫として、小原が提唱する意思決定の考え方を参考に、「効率」と「公正」の視点から政策案を追究していくようにした。

2 目的

本研究は、生徒の社会参画意識を高めるために、中学校社会科公民的分野に焦点を当て、地域社会に関する教材を活用するとともに、主体的に課題解決を図る有効な意思決定過程を明らかにすることを研究の目的とする。

II 仮説

中学校社会科公民的分野において、自分事として社会的な事象をとらえることができる地域教材を用いて、価値判断や意思決定する場面を位置付け、地域社会へ提言する学習活動を行うことで、生徒の社会参画意識を高めしていくことができるであろう。

III 方法

1 検証授業の実施

日出町立日出中学校3年4組40名を対象として、令和元年10月21日から11月21日の間に全5時間の検証授業を実施した。最終日には、地域社会への提言と併せて、質問紙調査も授業の中で行った。

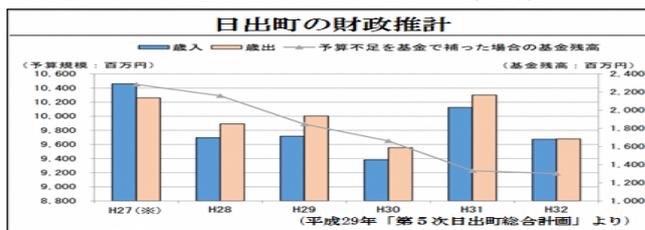
(1) 公民的分野における社会参画意識を高める指導の工夫について

中学校社会科公民的分野における社会参画意識を高める指導の工夫として、次の3つの手立てを考えた。

① 身近な地域教材の活用

事前の質問紙調査の結果から、社会的な事象を自分事としてとらえられるよう、身近な地域教材を活用した(資料2)。その地域教材から自分たちが住んでいる町の課題を把握させ、その解決策について考えさせていくことが大切であると考えた。

<資料2> 身近な地域教材の活用(一部抜粋)



② 7段階の意思決定過程における学習活動の工夫

価値判断や意思決定する場面を位置付けた学習活動を行うために、7段階の意思決定過程(資料3)における学習活動の工夫を考えた。その際、得られた事実認識をもとにして価値判断することで、意思決定する力を伸ばすことができる小原の意思決定の考え方を参考にした。

それぞれの過程ごとの学習活動の取組や手立てについては、以下の通りである。

ア 地域社会で見られる課題の認識

地域社会で見られる課題を自分事としてとらえられるよう、身近な地域教材から自分たちが住んでいる町の課題を把握させるようにした。

イ 地域社会に必要な政策を検討

前時の既習事項や生活経験等から「トゥールミン・モデル」を活用して「町に必要な政策案」を個人で考えさせた。「トゥールミン・モデル」は、「主張」・「根拠」・「理由付け」の3つを議論の基本要素として図式化したものである。

ウ 価値判断

「町に必要な政策案」を立案した後、子育て世代や高齢者等にどのような効果が期待されるのかを生徒に考えさせた。その際、「健康・福祉」・「教育・文化」・「防災・防犯」・「産業振興」・「生活・自然環境」・「その他」の6つの分野から検討させた。この過程では、「町に必要な政策案」を多面的・多角的に考察させることを目的とした。

エ 価値の模索

前時に個人で価値判断した「町に必要な政策案」を班の中で発表させた。他者の価値観に触れることで、今ある自身の価値観に揺さぶりをかけるようにした。この過程では、価値の「対立」の認識と吟味を目的とした。

オ 価値の整序

個人で価値判断した政策案をより深く考えさせるために、班で「効率」と「公正」の視点から追究し、協議させた。この過程では、「その政策が効果的で、税金等の無駄がないかどうか」という「効率」の視点と、「公平で、特定の人だけが有益になっていないか、多くの町民が納得する税金の使い方か」という「公正」の視点から政策案を追究していくようにした。追究させた後、町が優先すべき政策案について、班ごとにランキングさせ、政策案を決定させた。

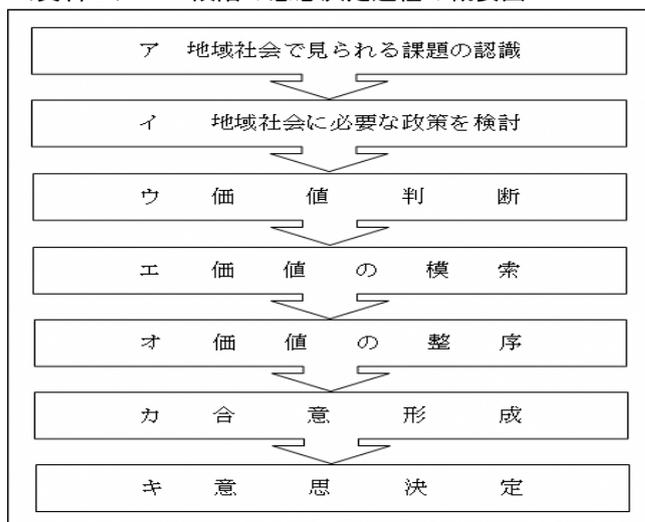
カ 合意形成

各班から出された政策案を6つの分野ごとに整理し、学級で合意形成を図った。この過程では、各班から出された政策案を6つの分野に分け、それぞれの分野ごとに様々な視点から協議し、政策の内容を擦り合わせた。

キ 意思決定

学級で合意形成を図った政策案の中から、6つの分野ごとに最も合理的だと考えられる政策案を選び、次時にその政策案を自治体に提言することを伝えた。

<資料3> 7段階の意思決定過程の概要図



③ 地域社会への提言

意思決定過程の中で得た多くの気づきをもとに、学級で意思決定した政策案を自治体に提言することで、生徒の社会参画意識を高めていくようにした。

(2) 調査方法

① 検証授業による仮説の検証

② 授業観察

単元を通して、生徒の発言やワークシートの記述内容を記録し、生徒の思考の変容を見取る。

③ 一枚ポートフォリオによる評価

1時間ごとに学習した内容について自己評価をし、意思決定過程を通しての生徒の思考の変容を見取り、手立ての有効性を考察する。

④ 質問紙調査

検証授業前と後の質問紙調査の結果を比較し、生徒の意識の変容を見取る。

IV 結果

1 検証授業の結果

(1) 7段階の意思決定過程における学習活動の工夫について

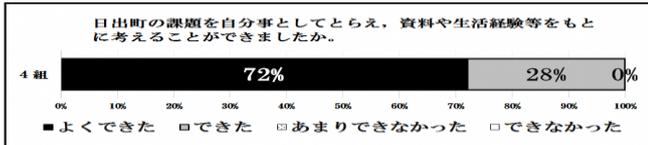
① 地域社会で見られる課題の認識

【視点①】身近な地域に関する資料を活用することが、自分事としてとらえ、地域社会で見られる課題を把握する手立てとして有効であったか。

一枚ポートフォリオの地域社会で見られる課題の認識に関する質問項目において、「日出町の課題を自分事

としてとらえ、資料や生活経験等をもとに考えることができた」と肯定的な回答した生徒の割合は 100%であった(資料4)。その理由として、「日出町に関する資料を活用したことで、日出町の課題を把握することができた。日出町の現状を知ったことで、他人事ではないと思ったから」、「自分たちの生活に直結している問題もあり、他人事ではないと思ったから」と記述していた。

＜資料4＞ 地域社会で見られる課題の認識に関する質問項目の結果



② 地域社会に必要な政策を検討

【視点②】既習事項や生活経験等をもとに、ツールミン・モデルを活用することが、地域社会に必要な政策案を考えるための手立てとして有効であったか。

一枚ポートフォリオの地域社会に必要な政策の検討に関する質問項目において、「ツールミン・モデルを活用したことで、日出町に必要な政策案を既習事項や生活経験等から考えることができた」と肯定的な回答をした生徒の割合は 100%であった(資料5-①)。その理由として、「ツールミン・モデルを活用したことで、日出町の課題を踏まえて、政策案を考えることができたから」、「前時で学習した内容を踏まえて、政策案を考えることができたから」と記述していた。ツールミン・モデルを活用したワークシートの記述例については、資料5-②の通りである。

＜資料5-①＞ 地域社会に必要な政策の検討に関する質問項目の結果



＜資料5-②＞ ツールミン・モデルを活用したワークシートの記述例

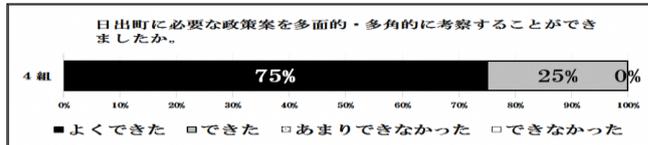
<p>【課題】(根拠となる事実)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減少、少子化の進行 保育園が少な、待機児童がいる 子育て中の女性の再就職の保障 	<p>【政策案】(主張)</p> <p>子育て支援の充実</p>	
<p>【理由付け】</p> <p>少子化対策や女性が働きやすい環境をつくるためには、子育て支援を充実させていく必要があるため。</p>		
分野	対象者	効果
健康・福祉	子育て世代	<ul style="list-style-type: none"> 保育料や子ども医療費の減免等により、経済的負担や育休後の再就職の優先を保障することで、子育てしやすい環境をつくることにつながる。 保育園や認定こども園等を整備することで、働きながら子育てが可能になる。

③ 価値判断

【視点③】地域社会に必要な政策案を多面的・多角的に考察することが、課題解決のための手立てとして有効であったか。

一枚ポートフォリオの価値判断に関する質問項目において、「日出町に必要な政策案を多面的・多角的に考察することができた」と肯定的な回答した生徒の割合は 100%であった(資料6)。その理由として、「日出町に必要な政策案を健康・福祉の面から、子育て世代や高齢者、体の不自由な人たち等の立場から考えることができたから」、「安心して生活できるように、防災・防犯の面から様々な人たちの立場から政策案を考えることができたから」と記述していた。

＜資料6＞ 価値判断に関する質問項目の結果

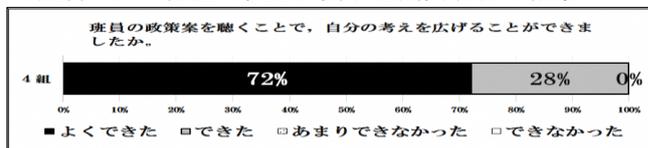


④ 価値の模索

【視点④】他者が考えた政策案の主張を理解し、今ある自分の価値観に揺さぶりをかけることが、思考を広げるための手立てとなっていたか。

一枚ポートフォリオの価値の模索に関する質問項目において、「班員が考えた政策案を聴くことで、自分の考えを広げることができた」と肯定的な回答した生徒の割合は 100%であった(資料7)。その理由として、「自分では考えつかなかった政策案を班員から聞いたことで、自分の考えを広めることができたから」、「班員の意見の中には、自分では気付かない政策案があったので、自分の考えに反映することができたから」と記述していた。

＜資料7＞ 価値の模索に関する質問項目の結果



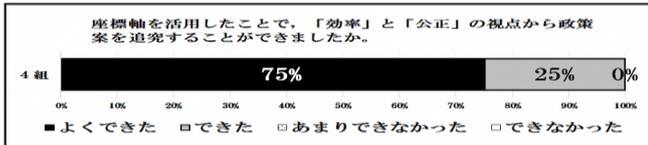
⑤ 価値の整序

【視点⑤】座標軸を活用することが、「効率」と「公正」の視点から政策案を追究するための手立てとして有効であったか。

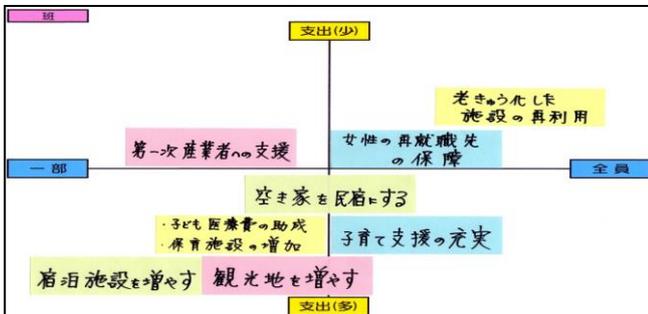
一枚ポートフォリオの価値の整序に関する質問項目において、「座標軸を活用したことで、効率と公正の視点から政策案を追究することができた」と肯定的な回答

した生徒の割合は 100%であった(資料8-①)。その理由として、「座標軸を活用したことで、税金の無駄がないかという効率の面と、誰にとっても公平な政策案かどうかという公正の面から政策案を追究することができたから」、「最初は、町民の雇用を確保するために、企業を誘致してほしいと思っていたが、日出町の財政状況から企業立地のための補助金等を継続的に支給するのは難しいと思った。長期的に見れば、雇用の確保と税収の見込みはあるが、現時点では財政を先にたて直していく必要があると思った。財政をたて直さなければ、私たちの生活へのサービスが行き届かなくなってしまう恐れがあるため、全員がその政策に納得してくれるとは思わないから」と記述していた。また、小グループでの生徒の発言記録からも、座標軸を活用して「効率」と「公正」の視点から追究していた(資料8-②、8-③)。

<資料8-①> 価値の整序に関する質問項目の結果



<資料8-②> 「効率」と「公正」の視点から追究した座標軸



<資料8-③> 「効率」と「公正」の視点から追究した生徒の発言記録

生徒の発言

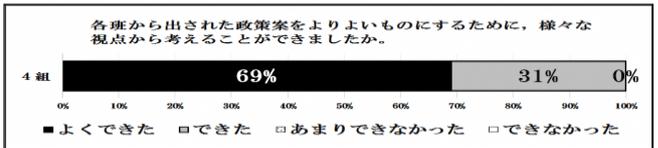
○各自が考えた政策案を4人班で協議する場面
A: 「BとCさんが考えた観光地や宿泊施設を増やすのは、財政面で、日出町は厳しいかもね。」
B: 「確かに。仮に作ったとしても、売上が伸びるかはわからないし、みんなが納得してくれるかもわからないよね。」
C: 「失敗したら、税金の無駄使いになるかもしれないよね。そうしたら、益々日出町に借金がたまるよね。」
D: 「Aさんが考えた老朽化した施設の再利用は、良いかもね。老朽化した施設の再利用は、新しい建物をつくるより税金はかからないよね。」
B: 「そうだよね。この施設を再利用して、子育てや高齢者のための福祉施設等を作るとみんなから納得してくれると思うけど。」
C・D: 「良い案だね。班の政策案として1つだそうよ。」

⑥ 合意形成

【視点⑥】各班から出された政策案を整理し、様々な視点から吟味・調整することが、合意形成を図る手立てとして有効であったか。

一枚ポートフォリオの合意形成に関する質問項目において、「各班から出された政策案をよりよいものにするために、様々な視点から考えることができた」と肯定的な回答した生徒の割合は 100%であった(資料9)。その理由として、「他の班が考えた政策案をうまく取り入れながら、様々な視点から日出町に必要な政策案を考えることができたから」、「子育て世代から高齢者まで、どうすれば安心して生活できるかを考えながら、政策案を擦り合わせていくことができたから」と記述していた。

<資料9> 合意形成に関する質問項目の結果

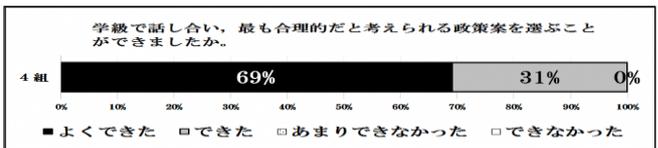


⑦ 意思決定

【視点⑦】学級で最も合理的だと考えられる政策案を選ぶことが、焦点化するための手立てとして有効であったか。

一枚ポートフォリオの意思決定に関する質問項目において、「学級で話し合い、最も合理的だと考えられる政策案を選ぶことができた」と肯定的な回答した生徒の割合は 100%であった(資料10)。その理由として、「持続可能なまちづくりの視点から学級で話し合ったことで、分野ごとに最も合理的だと考えられる政策案を選ぶことができたから」、「学級で話し合い、よりよい社会を築いていくための政策案を分野ごとに、根拠をもって選ぶことができたから」と記述していた。

<資料10> 意思決定に関する質問項目の結果



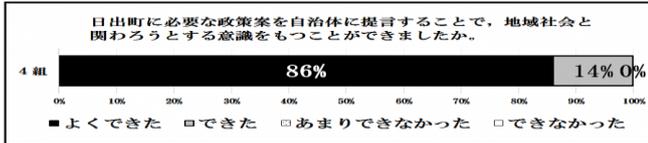
(2) 地域社会への提言について

【視点】地域社会に必要な政策を行政へ提言することが、地域社会への参画意識を高めるための手立てとして有効であったか。

一枚ポートフォリオの地域社会への参画意識に関する質問項目において、「日出町に必要な政策案を自治体に提言することで、地域社会と関わろうとする意識をもつことができた」と肯定的な回答した生徒の割合は 100%であった(資料11)。その理由として、「今日だけでなく、これからも自分たちが住んでいる町や社会に対して、関心をもって関わっていくことが大切だと思った

から」, 「日出町の課題に対して, 今後も考えていくことが大切だと思ったから」と記述していた。

<資料 11> 地域社会への参画意識に関する質問項目の結果



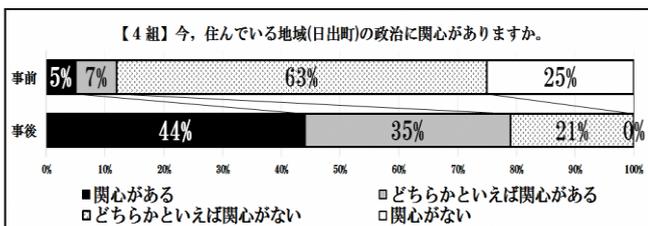
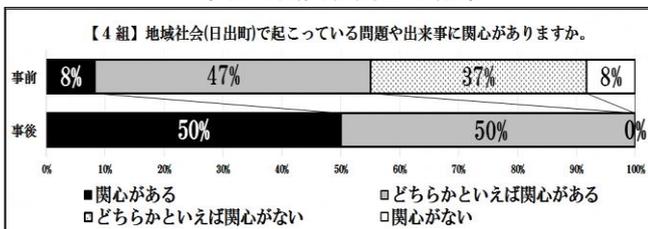
2 公民的分野における社会参画に関する事前・事後の質問紙調査の結果

(1) 地域社会への関心度について

「地域社会(日出町)で起こっている問題や出来事に関心がありますか」という質問項目で「関心がある」と肯定的な回答をした生徒の割合は, 検証授業前と比べて, 事後は 45 ポイント上がった。その理由として, 「日出町が財政面以外でも多くの問題を抱えていることが分かったので, 無関心ではいけないと思ったから」, 「日頃から地域社会の問題に関心をもって関わっていくことが大切だと考えたから」と記述していた。

次に, 「今, 住んでいる地域(日出町)の政治に関心がありますか」という質問項目で「関心がある」と肯定的な回答をした生徒の割合は, 検証授業前と比べて, 事後は 67 ポイント上がった。その理由として, 「日出町の財政が厳しいことを知り, これからの日出町は私たちのこれからは大きく関わっていくことが分かったから」, 「地域住民の一員として, 日出町の政治に関わっていくことが大切だと思ったから」と記述していた(資料 12-①)。

<資料 12-①> 地域社会への関心度に関する事前・事後の質問紙調査の結果

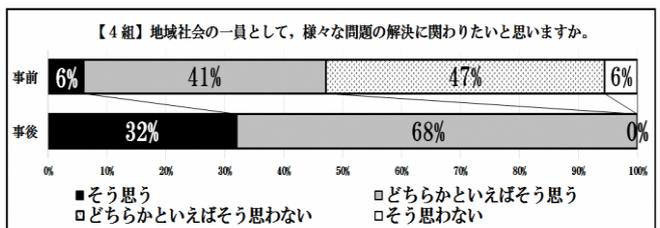
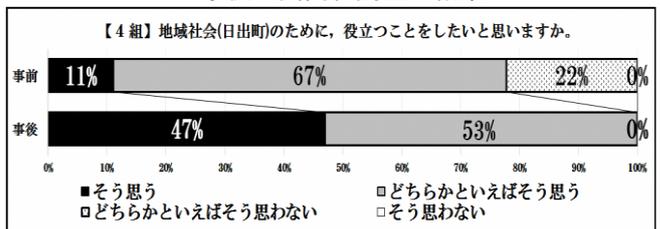


(2) 地域社会への参画意識について

「地域社会(日出町)のために, 役立つことをしたいと思いますか」という質問項目で「そう思う」と肯定的な回答をした生徒の割合は, 検証授業前と比べて, 事後は 22 ポイント上がった。その理由として, 「生まれ育った町に対して貢献したいという気持ちはあったが, 授業を通して, 日出町では問題が蓄積していることが分かったので, 自分たちができるところから行動していきたいと思ったから」, 「授業を通して, 日出町の問題を少しでも解決していきたいと思ったから」と記述していた。

次に, 「地域社会の一員として, 様々な問題の解決に関わりたいと思いますか」という質問項目で「そう思う」と肯定的な回答をした生徒の割合は, 検証授業前と比べて, 事後は 53 ポイント上がった。その理由として, 「日出町の現状を知ったことによって, 課題解決に向けて, 私たち一人一人が考えて行動していかなければならないと思ったから」, 「日出町の課題を少しでも解決できるよう, 自分たちができるところから関わっていきたいと思ったから」と記述していた(資料 12-②)。

<資料 12-②> 地域社会への参画意識に関する事前・事後の質問紙調査の結果



V 考察

1 検証授業の考察

(1) 7段階の意思決定過程における学習活動の工夫について

地域社会で見られる課題を認識する場面では, 「日出町の現状を知ったことで, 他人事ではないと思った」という記述が見られたことから, 身近な地域教材を活用したことで, 地域社会で見られる課題を自分事としてとら

えることができたのではないかと考える。また、単元を通して、地域社会に関心を持ち、課題解決に向けて主体的に考えていくことができた。

地域社会に必要な政策を検討する場面では、資料5-②が示すように、前時で学習した日出町の課題を踏まえた上で、根拠をもとに政策案を考えていたことが読み取れる。これは、根拠となる事実をもとに結論に導くトゥールミン・モデルの思考ツールを活用したことで、地域社会に必要な政策案を考えることができたのではないかと推測される。

価値判断する場面では、地域社会に必要な政策案を「健康・福祉」や「産業振興」等の面から、誰にどのような効果があるのかを具体的に考えていたことから、多面的・多角的に考察することができたと言える。

価値の模索の場面では、前時に各自で価値判断した政策案を互いに聴くことで、自分の考えが深まり、思考を広げることができたのではないかと考える。

価値の整序の場面では、資料8-②が示すように、座標軸の思考ツールを活用し、「効率」と「公正」の視点から政策案を追究したことで、生徒の思考が深まり、変容が見られたと考える。例えば、一枚ポートフォリオの生徒の記述から「最初は、町民の雇用を確保するために、企業を誘致してほしいと思っていたが、日出町の財政状況から企業立地のための補助金等を継続的に支給するのは難しいと思った。長期的に見れば、雇用の確保と税収の見込みはあるが、現時点では財政を先にたて直していく必要があると思った。財政をたて直さなければ、私たちの生活へのサービスが行き届かなくなってしまう恐れがあるため、全員がその政策に納得してくれるとは思わないから」という記述が見られ、生徒の思考に変容があったことが読み取れる。前時までの既習事項を生かし、日出町の財政状況からどの政策を優先すべきなのか、どのような政策をすれば、町民に納得してもらえるのか等、「効率」と「公正」の視点から追究したことで、生徒の思考が深まっていったことが分かる。

小グループでの生徒の発言記録においても、資料8-③が示すように「老朽化した施設の再利用は、新しい建物をつくるより税金はかからないよね」、「この施設を再利用して、子育てや高齢者のための福祉施設等を作るとみんなから納得してくれると思うけど」という発言があったことから、限られた予算の中で効率よく改善し、誰に対しても公平になるように政策案を考えていたことが読み取れる。これは、「効率」と「公正」の視点から政策案を追究していたと言える。

合意形成する場面では、各班から出された政策案を

6つの分野ごとに整理し、様々な視点から政策の内容を擦り合わせたことで、合意形成を図ることができたのではないかと考える。

意思決定する場面では、合意形成が図られた政策案を持続可能なまちづくりの視点から学級で協議したことで、最も合理的だと考えられる政策案を分野ごとに選ぶことができたのではないかと考える。

以上のことから、それぞれの意思決定過程ごとに学習活動を工夫したことで、生徒の社会参画意識を高めていくことができたのではないかと考える。

(2) 地域社会への提言について

持続可能なまちづくりの視点から、学級で意思決定した政策案を自治体に提言したことによって、生徒の社会参画意識を高めていくことができたと考える。

授業では、日出町長と政策推進課の担当者がゲストティーチャーとして参加して頂いた。学級で意思決定した政策案を自治体に提言できたことや、日出町長や政策推進課の担当者が生徒の意見を真摯に受け止め、政策案について丁寧に返答して頂いたことによって、生徒の社会参画意識を高めていくことができたのではないかと推測される。

2 公的分野における社会参画に関する事前・事後の質問紙調査の考察

(1) 地域社会への関心度について

地域社会への関心度に関する質問項目の結果から、検証授業前と比べて、事後に生徒の地域社会への関心度が高まったことが読み取れる。この背景には、単元を通して、日出町が財政面等で多くの問題を抱えていることを知ったことによって、無関心ではいけないと考えた生徒が多くいたのではないかと推測される。それゆえ、地域社会への関心度が高まったのではないかと考える。

(2) 地域社会への参画意識について

地域社会への参画意識に関する質問項目の結果から、検証授業前と比べて、事後に生徒の地域社会への参画意識が高まったことが読み取れる。この背景には、単元を通して、持続可能なまちづくりの視点から日出町に必要な政策案について考えたことや、学級で意思決定した政策案を自治体に提言したことによって、地域社会への参画意識が高まったのではないかと考える。

VI 研究のまとめ

1 成果

本研究では、大きく3つの成果が得られた。まず1つ目は、身近な地域教材を活用したことで、地域社会で見られる課題に関心をもち、その解決に向けて、自分たちができることを主体的に考えていくことができたことである。

2つ目は、価値判断や意思決定する場面を位置付け、地域社会へ提言をする学習活動を行ったことで、生徒の社会参画意識を高めていくことができたことである。特に、課題解決に向けて考えた7段階の意思決定過程における学習活動が有効であったと考える。それぞれの過程ごとに学習活動を工夫したことで、生徒の思考が深まり、社会参画意識を高めていくことができたことと推測される。

そして、3つ目は、一枚ポートフォリオから学習前と学習後で、生徒の社会参画意識に変容が見られたことである(資料13)。資料13が示すように、学習前は、地域社会で見られる課題を把握しておらず、一般的な政策案を考えることに留まっていたことが分かる。その後、単元を通して、課題解決に向けて政策案を追究し、自治体に提言したことで、学習後は、政策だけでなく、地域社会の一員として、主体的に社会と関わっていかようとしていることが読み取れる。以上のことから、単元を通して、生徒の社会参画意識を高めていくことができたと言える。

2 課題

本研究の課題として、生徒の社会参画意識を高めていくためには、一時的な取組ではなく、小学校から高等学校に向かって徐々に高めていく必要があるということである。小学校では、「社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度」(注3)を養い、中学校では、小学校社会科で学んだ成果を生かして、「社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度」(注4)を育成していく必要がある。さらに、高等学校では、「よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度」(注5)を育てていく必要がある。つまり、社会参画意識の涵養は、子どもたちの発達段階に合わせて継続的に促していく必要があると言える。今後も、主体的に社会に参画しようとする態度を生徒に育成していきけるよう、日々研鑽に励んでいきたい。

＜参考・引用文献＞

- ・小原友行『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン 中学校編』 pp.12-13 2000
 - ・吉村功太郎「社会的合意形成をめざす社会科授業—小単元『脳死・臓器移植法と人権』を事例に—」『社会系教科教育学研究』第13号 pp.21-28 2001
 - ・椿倉大裕・須本良夫「社会的価値判断・意思決定の力を育む社会科学習—TPPについて価値判断し、これからの食料生産について意思決定する子の姿をめざして—」岐阜大学教育学部『教師教育研究』12巻 2016
 - ・文部科学省中学校学習指導要領解説社会編 平成29年7月
 - ・勝壽葵「意思決定力の伸長を目指す社会科授業の構築—多面的・多角的な視点を重視して—」愛知教育大学教育実践研究科『修了報告論集』9巻 pp.102-103 2018
- (注1) 文部科学省中学校学習指導要領解説社会編 p.1 平成29年7月
 (注2) 文部科学省中学校学習指導要領解説社会編 p.9 平成29年7月
 (注3) 文部科学省小学校学習指導要領解説社会編 p.17 平成29年7月
 (注4) 文部科学省中学校学習指導要領解説社会編 p.27 平成29年7月
 (注5) 文部科学省高等学校学習指導要領解説公民編 p.25 平成30年7月

＜資料13＞ 一枚ポートフォリオの結果

【課題】持続可能なまちづくりのために、日守町はどのような政策を進めていくべきだろうか。	
学習前	日守町が今、どんな問題を抱えているのか分からず、70代高齢者が多いこと、子育てしている家庭や高齢者に対して支援してほしい。
1	日守町の課題を自分事としてとらえ、身近な活動等をもとに考えることができましたか。 【理由】日守町に関する資料を活用したことで、日守町の課題を把握することができた。日守町の現状を知ったことで、他人事ではないと、日守町の財政状況が、厳しいとは思わなかった。
2	トータルミン・モデルを活用したことで、自治体に必要な政策案を提案事項や生活経験から考えることができましたか。 【理由】トータルミン・モデルを活用したことで、日守町の課題を踏まえて政策案を考えることができた。
3	日守町に必要な政策案を多面的・多角的に考えることができましたか。 【理由】日守町に必要な政策案を健康・福祉・環境・子育て世代や高齢者、体の不自由な人など、立場から考えることができた。
4	班員の政策案を聞くことで、自分の考えを広げることができましたか。 【理由】自分とは考えが違った政策案を班員から聞くことができたので、自分の考えを広げることができた。
5	班議論を活用したことで、「効率」と「公正」の視点から政策案を追究することができましたか。 【理由】班議論を活用したことで、税金の無駄がないという「効率」の面と、誰もが公平な政策案かどうかという「公正」の面から政策案を追究することができた。
6	各班から出された政策案をよりよいものにするために、様々な視点から考えることができましたか。 【理由】1人の班員が考えた政策案をうまに取り入れるのが、様々な視点から政策案を考えることができた。
7	学級で話し合い、最も合理的だと考えられる政策案を提案することができましたか。 【理由】持続可能なまちづくりの視点から学級で話し合ったことで、分野ごとに最も合理的だと考えられる政策案を提案することができた。
学習後	日守町に必要な政策案を自治体に提案することで、地域社会と関わることができる提案をもつことができましたか。 【理由】今日行ったことで、これまで自分たちが住んでいるまちが安全と安心に過ごしているための政策を思い出す必要がなかった。これまで、社会に対しては関心はなかった。自分が生きている町の問題等、積極的に関わり自分たちができることから考えたいと思った。

○ 今日の授業を振り返って、評価の欄に、質問事項の評価を1～4の数字で記入して下さい。
 4：よくできた 3：できた 2：あまりできなかった 1：できなかった